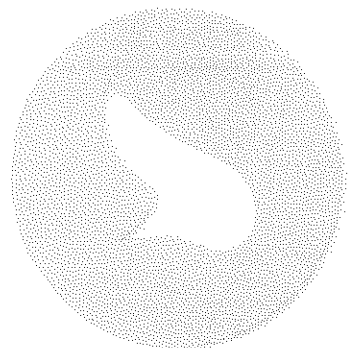


玉響放談 第十九回

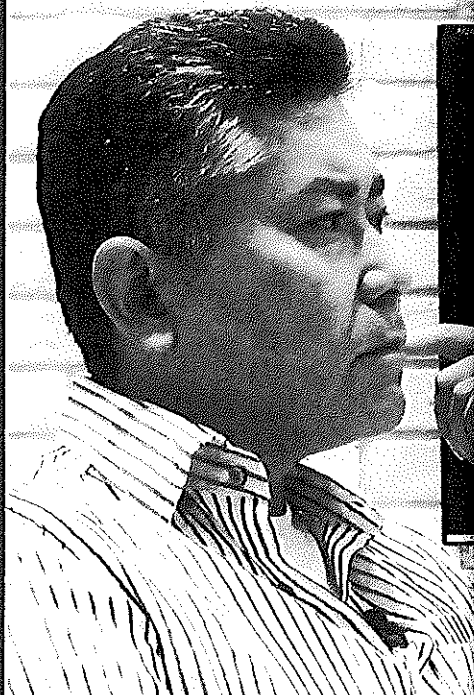
# 真の岩戸開きへの道

## 笑いの絶えない世の中へ

神霊とコンタクトを取る特殊能力を持ち、15歳から22歳まで和歌山県の高野山で僧侶の修行をしながらその力に磨きをかけたという株式会社「粋流の里川場」代表取締役・長典男氏。人は自分の寿命さえも自らの「想念」でコントロールできるほどの強い精神力を持つという。その力を使えば、自分たちで未来を選択し、誰もが楽しくて仕方ないと、自然と笑いがこぼれるような素晴らしい世の中を創造することも十分に可能である。そのための、最大にして、最強の方法とはいったい何か。



ちょう のり お  
**長典男**  
×  
**中矢伸一**



たまゆら

# 月刊 玉響

tamayura

## Contents

No.231  
平成25年  
10月号

玉響放談 第19回 笑いの絶えない世の中へ 真の岩戸開きへの道 長典男×中矢伸一 ..... 01	地球の内なる太陽 第19回 世界の変化が本格化する予兆の中で IN DEEP ..... 46
五六七の胎動 第19回 「人類資金」は存在する!? 中矢伸一 ..... 14	前世から未来へ 第19回 高橋まじのり ..... 54
「宇宙の法則」と心の持ち方、 そして病気について 第12回 鶴見隆史 ..... 21	22世紀への羅針盤 第26回 未来編(エクボが目指すもの)9 エクボ株式会社 清水英祐 ..... 62
新商品 「鶴見式ファイバー」で「鶴見式」をもっと効果的に! 田中尊一 ..... 25	岡本天明逸話伝 第18回 上毛三山の背景を探る(その3) 黒川柚月 ..... 67
特別寄稿 新発売!ペット用サプリメント「アニマルゲン」のご紹介 為谷茂樹 ..... 28	地球サイエンスの現場から 第18回 ウォーキングは「ヘッパ」啓蒙、で! 速く歩くと寿命が延びる! 加納善雄 ..... 71
ひふみ農園便り 第34回 元気がない野菜への対処法と 初めての日月神示輪読会 横塚幸一 ..... 30	読者インタビュー 第19回 佐久間靖子さん ..... 75
宗教家・霊的指導者になる 霊性と食の秘密 第4回 中矢伸一 ..... 35	読者のひろば ..... 78
	編集後記 ..... 80

## 裏高野の僧侶として修行する

中矢 今回の対談ゲストは、長典男さんです。よろしくお願います。

長 よろしくお願います。

中矢 長さんとの出会いは、まあ、ある方から、一種の特殊能力をお持ちの方だということでご紹介頂いたのですが、私は最近では霊能者関係の方と会うことはあまりないのですけれども、ご本人にお目にかかり、いろいろなお話を伺って、話を通じるところがあったというか、感銘を受けた部分も多々ありましたので、一度「玉響」で登場して頂けたら、と思つて今回お願しました。

小さい時から何か視えたり聞こえたりしていたと伺っています。まずはそのあたりからお願します。

長 子どもの頃にはいつも寝るのが怖かったですね。昼間は明るく自然と光が入ってくるので、その「映像」というのが薄ぼけるのですが、暗くなつて明かりが落ちてくると、見えなくていいものがどんどん見えてきちゃう。本当に寝るのが怖かったです。これは笑い話なのですが、寝る時に目をつむりたくない、そこでマッチの軸を弓なりにして臉の上下に挟んで。

中矢 閉じないように？

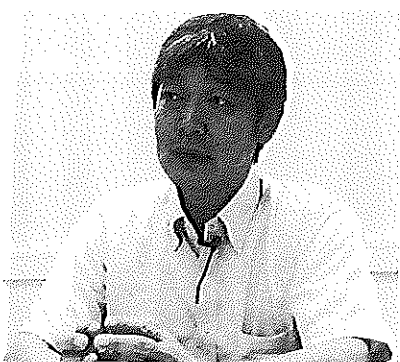
長 そうです。そうしたらそこで、宮崎先生という出家僧侶にお会いしまして、いきなり腕を掴まれて「一緒に来い」と声をかけられたのです。そのまま無理矢理東京駅まで連れて行かれて、幹線に乗せられて高野山まで連れて行きました。真言宗金剛峯寺派の阿闍梨で、前田正毅先生という、もうお隠れ(死去)になつてしまった先生なのですけれども、その方の前にいきなり連れて行かれたのです。

中矢 阿闍梨の前田先生？

長 はい。その前田先生の前に連れて行かれて「なぜここに来たかわかるか？」といきなり聞かれて。「なぜ私のですか？」と逆に聞いたら、宮崎先生が、前田阿闍梨から「何月何日の何時から何時くらいの間にこういう風体のこういう人間がここに来るから、見たら捕まえて連れて来い」という命令を受けて、護国寺で待っていたと。

中矢 エエッ！

長 それから前田先生のもとで、通いながらの僧侶の勉強を始めたのですよ。真言宗金剛峯寺派という僧侶の僧籍を持つて。ここには「表高野」と「裏高野」がありまして、人のために一生懸命拜んだり人を成仏させるためにお寺の業務を果たす僧侶が表高野、



長 典男

ちょう・のりお。1957年群馬県太田市生まれ。1972年、中学3年のとき、偶然立ち寄った護国寺で運命的な出会いを果たした僧侶に導かれ、和歌山県の高野山にて真言宗金剛峯寺派の裏高野、僧侶として修行を始める。22歳で還俗し、一般の社会人として企業に就職。業務の傍ら、その類稀なる「見えないものを見る力」を生かして、悩める人の相談に乗ったり、自らも必要に迫られた場合は情報提供をして、人の手助けをしていた。現在、株式会社 稗流の里川場 代表取締役。

長 ええ、閉じないようにしたのです。結局、目を開いたまま寝ちゃいますね(笑)

中矢 それはそうですね(笑)

長 そのようなこともあって、子供の頃は非常にひきこもりで内向きの子でもでした。どうにかしなくてはいけないと子供ながらに思っていたのですけれども、六七歳くらいの時には、どうやって死んだら一番ラクか、ということばかりずっと考えていました。その後、中学三年の時に、訳もわからずにいきなり東京に出てきたのです。護国寺という場所に。なぜ護国寺なのかもわからないままです。

中矢 その、護国寺に行ったというのは、いわば死に場所を求め

加持祈祷・お祓いを専門にするのが裏高野です。自分は裏高野の方に属していました。

中矢 高野山でも「表高野」と「裏高野」があるのですか？

長 はい。暗黙の了解事項ですから、どこに聞いても、そんなものは無いと言われると思いますよ。裏(高野)の人間はお互いのつながりがいいのです。でも阿闍梨は、誰が裏であるかは知っています。何かあった場合については、そこから派遣されると。行つた先で会つて初めて「あ、あなたも裏だったのですね」ということになります。

中矢 いきなり連れて行かれて、還俗するまでの22歳まで高野山で修行をされていた。

長 そうです。平日は学校に行つていて、夜間だけの通い修行でした。午後9時過ぎから朝のたいい3時くらいまで、決められた修行というものをします。

中矢 具体的にはどういった修行をされていたのですか？

長 読経がメインですね。経をまず身につけるといふ。その次に、今度は精神統一とかそういうものです。「水打ち」といふ、滝のようなものに打たれる修行があるんですけども、高さ2メートルか2.5メートルくらいのところから水が落ちてくるのです。それから「入水流」といふものがある、これは真冬に、氷が張つて